

MV-22 オスプレイ 「同盟力」

MV-22オスプレイ配備は、以下の米国の能力を著しく強化：

- ・日本の防衛
- ・人道支援や災害救助任務の実施
- ・その他同盟国としての任務遂行

安全性はMV-22の運用上優先事項

- ・MV-22は安全：他の海兵隊航空機と同様に、機材の改良、2年ごとのソフトウェアのアップデート、操縦士の訓練強化および航空機の習熟向上により、2010年会計年度以来、10万飛行時間当たりのクラスA事故率は3.27件
- ・世界初のティルトローター機として製造開発の後、現在248機のMV-22Bが世界中で運用され、安全で信頼のおける航空機となり、継続して海兵隊が実施する強襲支援に対応

証明された実績

- ・ハイチ（2010年）、フィリピン（2013年）、ネパール（2015年）における災害救助活動の支援を成功裏に終える
- ・リビアで墜落した航空機のパイロット救出作戦に参加
- ・イラクとアフガニスタンでの戦闘作戦を支援
- ・海兵遠征部隊（MEU）の配備展開を実施

同盟国にとってのメリット

- ・第三海兵遠征軍の日本防衛能力を著しく強化
- ・アジア太平洋地域における人道支援・災害救助任務の遂行能力を向上
- ・平和と安全に貢献する任務をより効率的・効果的に遂行

地元地域にとってのメリット

- ・ヘリコプターと比べ全体的により静かに運用
- ・より高く、より早く飛行するため人口密集地域での飛行を減少
- ・オスプレイの分遣隊はアジア太平洋地域各国での演習に毎月配備され、沖縄での配置の時間を削減

画期的な性能 - スピード、搭載量、航続距離において大きく飛躍

- ・ヘリコプターの機能と固定翼機のスPEEDや航続距離を合わせ持つ
- ・CH-46Eヘリコプターと比べ2倍の速度、約3倍の搭載量、4倍の航続距離を備える
- ・高高度飛行及び飛行中の給油が可能

フィリピンにおける災害対応

- ・2011年の「トモダチ作戦」では、1800キロ離れた東北地方までCH-46機で3日を要した
- ・2013年11月に台風30号がフィリピンを直撃した際、普天間航空基地から直接フィリピンに飛んだオスプレイは、沖縄から東北までとほぼ同距離（1800キロ）を3時間以内で飛行
- ・フィリピンでの救助活動「ダマヤン作戦」では、1200人以上の人を避難させ、人命を救助し、従来型の飛行機やヘリコプターでは行くことのできない場所に20トンの物資を輸送
- ・固定翼機のように早く飛行し、空中給油が可能で、ヘリコプターのように離着陸できる機能は、記録上最も破壊力のある台風の一つとなった台風30号による被害への対応で、人命救助や被害軽減において効果的であることが証明された



ネパール：サハヨギハット作戦

- 100回を超える派遣任務で225時間の飛行
- 134,000ポンド（約61トン）の物資を輸送
- 350人の人員を輸送
- 33人の負傷者を安全な場所へ避難



フィリピン：ダマヤン作戦

- 40,000ポンド（約18トン）の物資を輸送
- 1,200人の人員を輸送
- 多くの人を安全な場所に避難

フィリピン：ダマヤン作戦



垂直離着陸モード

転換モード

固定翼モード

より高く - より早く - より静かに

MV-22 オスプレイの 機能

スピード	-----	519 km/h
最高高度	-----	7,529 m
搭載量	-----	9,072 kg
収容人数	-----	24人
戦闘半径	-----	602 km

安全性 - 機能強化 - 同盟国や地元地域にとって有益

MV-22オスプレイに関する動画は：<https://www.youtube.com/watch?v=KSjAuWXWRM>
さらに詳しく知りたい方は：<http://www.okinawa.usmc.mil/MV22/MV22.html>